

健診を 受診しよう!

自分自身の体を
正しく知ろう!



「自分はまだまだ元気だし、今まで大きな病気にもかかったことがないから…」と安心しているところに生活習慣病の因子が潜んでいることがあります。

まずは、健診を受診し自分の健康状態を知ることが大切です。現状を知ること、健康で過ごせるヒントをつかみ、日常生活で活かしていきましょう!

今年度まだ受診されていない方は、下記の健診をぜひご利用ください。

 健康づくり増進課  029-898-2312

あなたが受ける健診はどの健診？

健診日に加入の健康保険	対象年齢 (年度年齢)	健診の名称	料金 ※オプションにより異なります
国民健康保険	40 ～ 74 歳	特定健診	1,000 円
後期高齢者医療保険	75 歳以上	後期高齢者健診	0 ～ 1,000 円
その他の健康保険	40 ～ 74 歳	特定健診	健康保険により異なります
	19 ～ 39 歳	成人健診	1,000 円

がん検診は健康保険に関係なく受けられます！

がん検診などの内容	集団検診の対象年齢(年度年齢)	料金
肺がん検診	40 歳以上	無料 喀痰検査は 600 円
前立腺がん検診	50 歳以上の男性	500 円
肝炎ウイルス検診	40 歳以上で未検査	500 円

今後の健診日程

種別	健診日	受付時間（予約不要）		備考
		9:30 ～ 11:00	13:30 ～ 14:30	
地区健診	9 月 30 日 回		霞ヶ浦保健センター	※ 10 月 2 日 回の地区健診は、歯周疾患検診も行っています。（要予約）。 ※ 午前中の健診受付人数は、150 人までに限らせていただきます。ご了承ください。 【必要な物】 ・ 受診券 ・ 保険証 ・ 料金
	10 月 1 日 回		霞ヶ浦保健センター	
	10 月 2 日 回		千代田公民館（講堂）	
	10 月 3 日 回		働く女性の家	
	10 月 4 日 回		安飾地区公民館	
	10 月 5 日 回		牛渡地区公民館	
	11 月 7 日 回		千代田公民館（講堂）	
	11 月 8 日 回		千代田公民館（講堂）	
	12 月 5 日 回		霞ヶ浦保健センター	
	12 月 6 日 回		霞ヶ浦保健センター	
	12 月 7 日 回		霞ヶ浦保健センター	



6月号に引き続き、霞ヶ浦の水上交通の江戸時代から現代にかけての様子を紹介します。中世にほぼ確立した霞ヶ浦の漁業や物資輸送など船を利用した生業は、江戸時代になると一段と活発になりました。

 歴史博物館

江戸を支える霞ヶ浦水運

霞ヶ浦の水上交通は、江戸時代に入ると霞ヶ浦周辺の諸藩の年貢米や物資を江戸へ輸送するため、活発になっていきました。それに伴い、霞ヶ浦に注ぐ河川との水上交通や霞ヶ浦沿岸に所在する港間の交流も盛んになっていきました。

恋瀬川水運と直結している高浜河岸は、府中松平藩や笠間藩、周辺の旗本領からの年貢米、周辺地域からの薪炭、醤油、材木、陶器などが江戸へ、桜川水運と直結している土浦は、川口や石田に河岸をもち、年貢米や醤油、酒、油、薪炭、木材、瓦などを江戸へ 4 日程度で運びました。これら水上交通の物資輸送には、四丁櫓を備え百俵以上の米を積載できる高瀬船が主に使用されました。

かすみがうら市域の水上交通では、中世に繁栄していた四十八津に所属する港が引き続き使用されました。江戸時代に各領地から上がる年貢米は、水戸藩領のものが

霞ヶ浦の水運の衰退

明治時代になると霞ヶ浦にも蒸気船がみられるようになります。明治23年に蒸気船「銚子丸」が、銚子と高浜間を就航し、途中に田伏や柏崎に寄港しました。銚子から生魚を運んでくることもあって、この蒸気船を沿岸の人々は「生蒸気」と呼んでいました。かすみがうら市域には、蒸気船に関わる資料として柏崎の素鷲神社絵馬(湖上に蒸気船が描かれている)や「内国通運会社取扱所」の看板、「志戸埼駅資料」などがあります。

しかし、時代は水上交通から陸上交通に重きが置かれるようになり、茨城県内では水戸線が明治 22 年(1889)に、常磐線が明治 28 年(1895)に開通していきました。霞ヶ浦において大きな港町であった高浜や土浦にも駅が整備され

魅力たっぷりの霞ヶ浦の水上交通

短時間での移動を可能にしていた陸上交通は、時間を大切にする現代人にとって魅力的なものです。水上交通には、陸上交通では味わえない要素が数多くあります。船の移動は、時がゆったりと流れる感覚、水辺からの陸地にみられる四季折々の自然風景、そして水上に吹く心地よい風を体感できると共に霞ヶ浦と一体になることが感じられます。非日常的な感覚がまさに、癒しやリフレッシュ効果となっているものと思われます。以前霞ヶ浦沿岸地域は、このような船がたくさん行き交うことで、現在では想像

ようになり、鉄道を使用した輸送網が確立されていきました。

そして、徐々に霞ヶ浦における水上交通は、利用者の減少から廃止され

る航路が増え、霞ヶ浦最後の水上交通であった県道土浦・大洋線を航路で結ぶ県営渡船「出島丸」（柏崎―玉造町浜の間）が、昭和62年(1987)の霞ヶ浦大橋の開通によって姿を消しました。



霞ヶ浦大橋が出来る前に航行した県営渡船「出島丸」